

令和2年度

研 究 紀 要

第52号

徳 島 県 高 等 学 校 教 育 研 究 会

音 楽 部 会

目 次

I	令和2年度 徳島県高等学校音楽教育講習会	1
	「西洋音楽史について」	徳島文理大学 音楽学部長 ジュゼッペ・マリオッティ氏
II	令和2年度 人権に関する児童生徒の作品	5
III	実践報告	7
	1 フレッシュ研修Ⅰを終えて	7
	2 フレッシュ研修Ⅱを終えて	14
	3 ミドルリーダー研修を終えて	22
IV	令和2年度 徳島県高等学校教育研究会 音楽学会会員名簿	26

I 令和2年度 徳島県高等学校音楽教育講習会

1. 日 時 令和3年2月19日(金)
2. 会 場 徳島文理大学音楽学部棟6階オーケストラ室
3. 講 師 徳島文理大学音楽学部長 ジュゼッペ・マリオッティ氏
4. 内 容 講義「西洋音楽史について」
5. 記 録 者 徳島県立国府支援学校 教諭 今津 崇晴 先生
6. 日 程
- | | |
|---------------|------------|
| 13:50 ~ 14:00 | 受付 |
| 14:00 ~ 14:05 | 開会行事 |
| 14:05 ~ 16:00 | 講演・ワークショップ |
| 16:00 ~ 16:10 | 諸連絡・閉会 |

『西洋音楽史について』

徳島文理大学 音楽学部 学部長
ジュゼッペ・マリオッティ氏

※講義は、資料「楽譜から音楽へ モーツァルトとベートーヴェン」に沿って進められた。

◎音楽棟設置のパイプオルガンでの演奏

・最初、ホール入り口で開会の挨拶の後、演奏となった。この文理大学のパイプオルガンは、北ドイツから輸入したものをホールに設置したものとのこと。北ドイツといえば、ブクステフーデやバッハ。彼ら先達もこの系列の楽器で演奏していたのだろうなと感慨深いものがあった。演奏曲は、『トッカータとフーガ ニ短調』であった。先生の柔らかいお人柄が表れたような演奏であり、演奏後は暖かな拍手と共に、これからの講義の趣味の良さを予感させるようなスタートとなった。

◎6Fオーケストラ室での講義と演奏（『西洋音楽史（様式史）』について）

○1, 楽器の音色の観点からの、現代における演奏との関わり（先生のメインの講義）

・エレベーターを上がり、6Fの部屋に行くと、2台の色の違うピアノが置いてあった。この2台のピアノをマリオッティ先生が演奏しながら、講義は進められた。マリオッティ先生はウィーン国立音楽大学のご出身ということで、ウィーンフィルのような伝統的な音楽の血脈を色濃く持たれている先生であった。アメリカ系の理論やスキルで武装しているような講義ではなく、ウィーンゆかりの情緒豊かな伝統を「実演によって伝える」スタイルでの講義であった。以下、使用した2台のピアノについて情報を挙げておく。ピアノの音は、衝撃と減衰の2つの要素で構成されているが、古楽器のフォルテピアノについては、現代ピアノと全く反対の挙動で、「衝撃は強く、減衰は弱い（斜めに直線的）」となっている。現代ピアノは優雅な曲線を描く音量の減衰であるので、かなり古典派音楽の当時のピアノは音そのものが違っていたのである。これらの情報がそのまま楽器の特性として演奏の様式（演奏方法、表現方法）へと直結するため、先生の講義を元に特徴を挙げておく。

●古楽器のピアノ（フォルテピアノ/ドイツ、ノイペルト社製）

- ・古楽器演奏家により、モーツァルトの生家にあったピアノをドイツで複製したモデルと同一と思われる。日本にいくつか輸入された現存するフォルテピアノは数十台であり、そのうちの1台であると思われ、大変貴重な1台である。
- ・木製。金属部分はほぼなく、重さは90kg（現代ピアノの5分の1で軽い）。
- ・鍵盤の重さ…15g（軽い）。鍵盤の深さ…7mm。鍵盤の伸び…5オクターヴ。
- ・ペダル…膝で押し上げて押す。
- ・指だけのテクニックで演奏。プライベートなキャラクターの音色。
- ・音色…音域のゾーンごとに音色が全く違う（低音部、中音部、高音部）。
- ・メモ…サイズ、シェイプはチェンバロと同じ。クラヴィコードは練習用に使われ、フォルテピアノが本番用に使われたとのこと。当時の観客数も少なく、50～100人（ベートーヴェン）、200人（パガニーニ）、くらいだったようである。

●現代のピアノ（ピアノフォルテ／アメリカ製（ハンブルグ製ではないと思います）、 スタインウェイ社）

- ・フルコンタイプのスタインウェイ。
- ・金属製のフレームを持ち、重さは450kg。
- ・鍵盤の重さ…55～60g。鍵盤の深さ…12mm。鍵盤の伸び…7オクターヴ。
- ・ペダル…足ペダルを踏む。
- ・腕からのテクニックで演奏（楽器の違いでパフォーマンスそのものが変わってしまった！）。
- ・音色…どの音も均一。
- ・メモ…昔と違い、長い音に対応している！

○西洋音楽史との関連

- ・1800年代…モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンの時代。今とは違う演奏上の常識があった。それは楽譜に書かれているものを古楽器で演奏することで生まれた独特の表現となっていた。なので、今のピアノで演奏するときには具体的な演奏法で注意が必要（現代のピアノは長い音にも対応しているので、今日では全ての音をレガートで演奏しているが…）。
- ・1870年頃…この頃に楽譜の読み方が変わり、誰もが知っているものになった。

○古楽器での演奏でわかる、楽器が変わればパフォーマンスも意味も変わるという事実

・①古楽器であるフォルテピアノは、先生の資料によると以下のような特徴があります。ダイナミクスによって音色が変化します。ピアノはドルチェ、メゾフォルテはフルで歌いやすく、フォルテはアグレッシヴでほとんどハード。ピアノッシモでもハンマーのインパクトはいつもかなり強いので、音がとてもクリアになります。低音は明瞭で強く、昼間部は歌いやすく、高音はかなり弱く、木質的である。②現代ピアノの特徴は、音色の違いははるかに少なく、実質的には音の大きさだけが変化します。低音は力強くもはっきりしない、中音部は美しく、高音部は非常に明るく鳴り響く。

- ・スラー…短いスラー（特に2音のスラー）は、特別な意味があり、1音目は少し長くテヌートし、2音目は書かれているよりも少し短くなる。
- ・タッチ…昔は「ノンレガート」が標準的なタッチ。アルベルティバスなどでは、ハーモニーのルール（和声音の保持＝チェロ等の白玉のイメージ）あり。弦楽器合奏のイメージで。
- ・アクセント…最も重要なルール。重い、軽いをつけての演奏（アルシス、テシス的な表現）
- ・レガート…長いスラーのはじめからディミニエンドになっていく。
- ・テンポ…ベートーヴェンのテンポ指示は、最初の部分のみ適用。第2テーマあたりからはまた変わってくる。

・実演は、配って下さった楽譜資料を基に行われました。使用曲はモーツァルトのピアノソナタ、ベートーヴェンの「月光」ソナタ、シュトラウスの「美しき青きドナウ」、ショパンのノクターン、エリーゼのために、など。

○文献紹介

・資料の中で、日本語訳もある本について言及がありました。以下、「フルート奏法試論（クヴァンツ）」「正しいクラヴィーア奏法（C.P.E.バッハ）」「ヴァイオリン奏法（L.モーツァルト）」「クラヴィーア教本（テュルク）」など。

○2，エディションについて（学会員からの質問を中心に答えていただきました）

- ・ショパン…パデレフスキ版が良い。エキエル版はショパンの祖国ポーランドでのコンクールでは使われているが、あまり使わない、パデレフスキ版が良いです、とのこと。ヘンレ版はあまり良くないとのことでした。
- ・春秋社版…すごく良いのは、ベートーヴェン、シューマン、リスト、ドビュッシー。書き込み等が素晴らしく演奏に役立てやすいとのことでした。だめな使わない方が良いのは、バッハ、ハイドンだそうです。
- ・ベートーヴェン…新しいヘンレ版（指あり）、ベーレンライター版（指なし）が良いそうです。
- ・モーツァルト、バッハ…ベーレンライター版、ウィーン原典版が良い。
- ・シューベルト…ウィーン原典版がベスト。ヘンレ版は多くの点で欠けている。ドーバー版はフレーズに欠陥があることが多いです、とのこと。

◎まとめ

・名西高校にマリオッティ先生が公開レッスンに来て下さったご縁から、今回の研修を行うことのできる運びとなりました。フォルテピアノも参加者に触らせていただくことができましたし、マリオッティ先生から、名刺をいただいたり、一緒に写真撮影までしていただき、心情的にも非常に豊かな気持ちになれた研修だったと思います。会場を提供して下さった文理大学、講師のマリオッティ先生、本当に良い時間をありがとうございました。



Ⅱ 令和2年度 人権に関する児童生徒の作品 作詞作曲部門

知事賞	城北高等学校	3年	宮内陽菜「心と心で」
	名西高等学校	2年	24 HR「白いアネモネ」
教育長賞	城東高等学校	1年	七條佳奈「誰かの光に」
	阿南支援学校	1年	人権サークルさわやかクラブ「今できることをしっかりとしよう」
	城東高等学校	2年	岸淵希美「自分を大切にしてみよう」
理事長賞	城東高等学校	1年	福士 華「君だけの花」
	城東高等学校	1年	林 一葉「心の中に」
	城東高等学校	2年	石井沙和「新しい未来へ」

●作詞作曲部門・知事賞 城北高等学校 3年 宮内陽菜 「心と心で」

言葉がわからなくても
心は必ず 繋がるよ
友達の輪を 広げよう
世界中 どこまでも
助け合おうよ 勇気を出して

手を繋ごうよ 大丈夫
世界中に橋を架けていこう
みんな一緒に
ひとりひとりが みんな違う性格だから
分かり合えない時もある
でも分かるうとするんだ
色んな偏見を捨て
一歩ずつ 歩み寄ろう
世界は繋がる 心と心で

幸せじゃない みんなが
誰かが泣いている 世界では
いろいろ理由があるけど
悲しいことだよ
考えようよ 何ができるかを
見て見ぬふりは できないよ
同じ地球に住んでいるのだから
助け合おうよ
今の私にできることは 小さいけれど
もっと知りたい 世界のこと

わたしたちに できること
今 未来に向かって
ひとりじゃない 私は
世界は繋がる 心と心で
世界は繋がる 心と心で

この曲は、ひとりひとりが周囲に目を向け、手を取り合うことで心は繋がっていくはずだ、という思いを込めて作りました。現在コロナウイルスを始め世界を見渡すと多くの問題があります。だからこそ、お互いを思う気持ちを忘れないで欲しいと思います。

この曲は、歌いやすく心に残りやすいメロディにすることを意識しました。

聞いていただける人が、今私たちにできることは何か、身近な所から考えていただけると嬉しいです。

『白いアネモネ』

いろんな所から 集まった種
 形も大きさも違うけど
 みんな夢を持っている
 ときには 強い日差しが眩しくて負けそうで
 ときには 強い風に吹かれて
 それでも芽を出した

※Keep your head up
 うつむかないで
 Keep hope alive
 希望を持って
 あなたは気づいていないだけ
 大きな力を持っている

今日もまた 話しかけてくれる誰かが
 いつからか待ち遠しく思う
 あの子のことを
 ときには 生きていく自信も失ったり
 ときには 負けそうになるけど
 それでも前を向いていた

※繰り返し
 雨が降り続き あの子が来なくなった
 さびしいけど 笑顔を見たいから
 大きな花を咲かせた
 久々に見たあの子の笑顔
 それは最高の笑顔
 よし！今なら何でもできそうな気がする！

Keep your head upうつむかないで
 Keep hope alive 希望を持って
 La la la...Ah Ah Ah

※白いアネモネの花言葉は「希望」

Moderato (♩=100)

The musical score is written for guitar and voice. It features a key signature of one flat (B-flat major) and a 4/4 time signature. The tempo is marked 'Moderato' with a metronome marking of 100. The score includes guitar chords (e.g., C, F, G, Am, Dm, G7, Em, FM7, D7, F#dim) and lyrics in both Japanese and English. The lyrics are:

 いろんな ところから 集まった 種

 形も 大きさも 違うけど

 みんな 夢を 持っている

 ときには 強い 日差しが 眩しくて 負けそうで

 ときには 強い 風に 吹かれて

 それでも 芽を 出した

 ※Keep your head up

 うつむかないで

 Keep hope alive

 希望を 持って

 あなたは 気づいて いないだけ

 大きな 力を 持っている

 今日も また 話しかけて くれる 誰かが

 いつから か 待ち遠しく 思う

 あの子の ことを

 ときには 生きていく 自信も 失ったり

 ときには 負けそうに なるけど

 それでも 前を 向いていた

 ※繰り返し

 雨が 降り 続き あの子が 来なくなつた

 さびしい けど 笑顔を見たい から

 大きな 花を 咲かせた

 久々に 見たあの子の 笑顔

 それは 最高の 笑顔

 よし！ 今なら 何でも できそうな 気がする！

 Keep your head up うつむかないで

 Keep hope alive 希望を 持って

 La la la...Ah Ah Ah

今年度は新型コロナウイルス拡大で私たちは、精神的に暗くなっていたので、明るく希望が持てるタイトルにしたかったのが創作するきっかけになりました。花言葉が「希望」の「白いアネモネ」を自分たちに重ねて、コロナ禍でも自分たちの成長を見守ってくれる人がいること、自分たちも精一杯成長したいと頑張ったことをイメージして作りました。

考え出した言葉に上手にメロディーを付けるのが難しかったですが、曲の起承転結や歌詞の内容に合った曲調にすることを工夫しました。

Ⅲ 実践報告

1 フレッシュ研修Ⅰを終えて

富岡東中学校・高等学校 梅本 香織

1年に及ぶフレッシュ研修が終わろうとしています。

期待と不安で入学生を迎える準備をしていた矢先の休業延長，行事の中止，部活動の活動制限，コロナ禍での授業，中学校・高校での授業，全てにおいて「初めて」で，この1年は，つくづく大変でした。

このような状況下でフレッシュ研修Ⅰを終えることができるのは，指導してくださった葉久先生をはじめ，多くの先生方，なにより生徒の支えがあってこそだと感謝しております。

新型コロナウイルス感染拡大によりいろいろなことを我慢しなければいけない悔しさは，この1年誰もが味わいました。その一方で，コロナ禍での音楽の在り方に深く考えることができる機会でもありました。音楽を通して，生徒に伝えたいこと，感じてもらいたいこと，その音楽性や精神性は，今に通ずるものがあると思います。

これからも「心は密に」，生徒とともに学び，ともに感じ，ともに成長していきたいです。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

芸術科（音楽）学習指導案

令和2年11月20日第2時限

富岡東高等学校 11HR 13名

指導者 梅本 香織

1 題材 箏の魅力に迫る

2 題材の目標

- (1) 豊かな音色や創意工夫を生かした表現を得るために，ふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を習得する。
- (2) 箏の様々な奏法による表現の特徴を捉え，器楽表現に対するイメージを豊かにし，意図をもって演奏を創意工夫する。
- (3) 箏を通して，日本の伝統文化への興味・関心を高めるとともに，互いにアドバイスをし，意見を交換してお互いの音を聴き合いながら合奏することで，主体性と協働力を高める。

3 教材 「さくらさくら」 日本古謡 「パプリカ」 米津玄師作曲 丸太美紀編曲

4 題材について

(1) 生徒の実態

対象生徒は第1学年商業科の音楽I選択生13名である。本クラスは、明朗活発な生徒が多く、お互いに協力しあえる関係を築けている。音楽科の授業においても、強い興味や関心をもって授業にのぞんでおり、2学期から取り組んだピアノでの器楽表現においても、大変、意欲的・協働的であった。

本題材に取り組むにあたり、和楽器経験についてアンケートを行った。これまで音楽の授業で和楽器を演奏したことがある生徒は半数近くいたが、本格的に箏を演奏することは初めての生徒がほとんどであった。一方で、「和楽器の音色が好きだから演奏してみたい」「今まで演奏したことがないので弾いてみたい」「友だちが演奏しているのを聴いて、自分も弾けたら楽しさだろうと思った」などの意見があり、全員が和楽器に対して興味・関心を持っていることがうかがえた。

(2) 教材について

箏は和楽器の中でも音域が広く、音量も豊かであることに加え、様々な音階を容易につくり出すことができることから、表現の可能性が大きく、多様な曲種やジャンルの音楽に用いられる。

また、近年では、西洋楽器と和楽器を融合させた『和楽器バンド』が注目される等、和楽器の演奏を、新しい視点から捉えられる機会も増えている。そのため、生徒たちが、特に興味深く箏の演奏に取り組めるのではないかと考えた。

「パプリカ」は、2020 東京オリンピック・パラリンピックの応援ソングとして発売された。未来に向けて多くの人々の夢を応援する歌として幅広い世代から支持を集めており、生徒たちにとっても馴染みのある楽曲である。この編曲では、右手のポジション移動が最小限になるように箏が調弦されるため、安定して爪音（箏爪で箏を弾く音、芯のある音）が出せるのではないかと考えた。また、箏の特徴的な奏法である「押し手」「掻き爪」「合わせ爪」「ピツィカート」なども効果的に用いられており、それらを習得しながら、箏を楽しみ、特性に触れることができる曲想となっている。

(3) 指導にあたって

生徒たちがこれまでに触れたことが少ない箏を扱うことで、音楽的視野を拓げるとともに、合奏で曲を完成させたときの達成感と充実感を味わわせたい。

まず、箏を1人1面ずつ用意し、箏に触れる時間を多く確保することで、技能習得を図る。

また、五線譜に弦名を記入した楽譜を用いることで、これまでに学習してきた楽典や読譜の知識を生かせるようにし、より箏を身近に感じ、演奏しやすいように配慮した。

そして、箏固有の音色に関心をもたせ、生徒たちの「こういった音を出したい」「このように演奏したい」という気持ちを把握し、適切な手だてを講じながら演奏や合奏を創意工夫する過程を大切にさせたい。

本題材を通じ、生徒たちが日本の伝統文化について、実感をともなって理解を深められることを念頭におき指導を進めたい。

5 学習指導要領との関連

A 表現

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(2) 器楽

器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

6 題材の評価基準

【新】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①曲想と箏の音色や奏法との関わりを理解している。(知識①)	①音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	①箏の音色の特徴、基本的な奏法、声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
②様々な表現形態による器楽表現の特徴を理解している。(知識②)		
③創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。(技能③)		
④創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けて演奏している。(技能④)		

【現行】

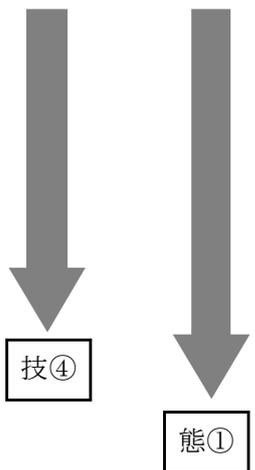
音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①箏の音色の特徴、基本的な奏法、声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。	①曲想と箏の音色や奏法の関わりを理解している。	①曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。
	②様々な表現形態による器楽表現の特徴を理解して	

	<p>いる。</p> <p>③音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。</p>	<p>奏する技能を身に付けて演奏している。</p>
--	---	---------------------------

7 指導と評価の計画（本時 8 / 11 時間）

次	時	教材	◎ねらい ●学習内容・学習活動	◇評価規準 ◆評価方法			要素
				知・技	思・判・表	態度	
第一次	①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏について（ワークシート） ・ 練習曲①② ・ 「さくらさくら」① 	<p>◎箏の由来や楽器の構造を知るとともに、音色の特徴や奏法による表現の違いを感じ取る。</p> <p>◎箏の基礎的な奏法を習得する。</p> <p>●箏の歴史や各部の名称について知るとともに、音色や表現の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者が演奏する「箏曲《六段の調》から〈初段〉」を鑑賞する。 ・ ワークシートで確認した後、実技を行う。 				音色 旋律 テクスチャ
	② ③		<p>●練習曲①②,「さくらさくら」①を演奏し、基礎的な奏法を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢, 爪の付け方・当て方, 手の置き方, 弦名, 弦の位置等を確認しながら演奏する。 ・ 弦名譜について知り, 読譜の学習をする。 ・ 箏は二人で1面を使用し, 互いにアドバイスをしながら練習する。 	↓	↓		
	④	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「さくら 	◎音色や奏法の違いによる音色や、奏法による多様な表現				

	⑤	さくら」 ②	<p>を生かして演奏する。</p> <p>●多様な奏法を用いながら、「さくらさくら」②を演奏する。</p> <p>・「搔き爪」「ピッツィカート」「合わせ爪」「押し手」を演奏する。</p>	
第二次	⑥	・パプリカ	◎他者との調和を意識し、表現意図を明確にしなが、箏による合奏を創意工夫する。	
	⑦		<p>●曲想をつかみ、譜読みをする。</p> <p>・指導者が演奏する「パプリカ」を鑑賞する。</p> <p>・担当パートを決め、個人練習において譜読みをする。</p> <p>・フレーズや主旋律、各種奏法を用いる箇所等を取り出し、部分的な練習を行う。</p>	
	⑧ (本時)	<p>●1箏、2箏に分かれてパート練習をする。</p> <p>・小節ごとに区切って練習した後、全曲を通して演奏する。</p> <p>・録画や録音をし、姿勢や音色、表現を確認する。</p> <p>・ワークシートを用いて、奏法や互いのパートの演奏を意識し、確認し合いながら演奏する。</p>		
	⑨	<p>●全員による合奏を創意工夫する。</p> <p>・録音や録音を聴いて、奏法による表現効果を確認し合ったり、アイデアを共有しあったりする中で、音楽の諸要素との関わりを考える。</p>		
⑩	<p>◎箏曲合奏の発表を通して、達成感を味わう。</p>			
	⑪			

		<ul style="list-style-type: none"> ●発表会を行い，学習のまとめをする。 ・聴いてもらった方々からのメッセージや録画録音を鑑賞し，振り返りを行う。 ・ワークシートに，創意工夫の内容やその表現効果についての自己評価をする。 ・準備・片付けまで協力して行う。 	
--	--	--	---

8 本時の学習

(1) 目標

- ・お互いの音を聴き合いながら，旋律を意識して曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付ける。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1. 本時の目標を確認し，課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクターを用いて，目標や学習内容を提示し，確認させる。 ○前時の録音や写真を見て，全体の音の響き，奏法や姿勢，主旋律のつながりについて考えさせ，ワークシートに記入させる。 ○聴き取った内容を意見交換し，共有させる。 		旋律
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>お互いの音を聴き合いながら，旋律を美しくつなげて箏合奏をしよう。</p> </div>			
2. パートごとに奏法等を確認し，練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ○1 箏パート，2 箏パートそれぞれの主旋律の担当箇所を確認する。 ○「押し手」をリレー練習し，音程を確認させる。 ○全体で共有した意見を取り入れながら練習しているか，それらを表現するにはどうすればいいのかを，指導，助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇知・技③ ◆活動の観察 ◆演奏の聴取 ◆ワークシート 	

3 本時の学習を生かして、全曲合奏をする。	○本時で学習した内容を、演奏に生かすように助言する。 ○ワークシートを用いて、本時の課題を項目ごとに振り返る。	
4 まとめ	○より調和のとれた演奏をするためにはどのようなことが必要になるのかを助言し、次時の学習内容を知らせる。	

(3) 評価及び指導 (手だて)

【知・技③】

A (十分満足できる) と判断される具体的な状況	・担当パートや全体での合奏において、旋律を知覚し、お互いの音を聴き合いながら、箏の音色・奏法などに留意して曲にふさわしい演奏や体の使い方ができている。
B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導	・他者からのアドバイスを大切にさせ、演奏に取り入れるように助言する。



2 フレッシュ研修Ⅱを終えて

城西高等学校 松丸 麻祐子

2年次を迎えると同時に、コロナ禍の影響で学校生活が一転しました。生徒の姿のない学校はがらんとしていて、ひどく寂しく感じたことを思い出します。授業が始まってからも、歌唱や器楽の面では制限も大きく、1年目に指導教員の先生方から指導頂いた授業のほとんどがそのままでは実践できず、一人で悩むことも多くありました。フレッシュ研修Ⅱの中で研究授業を2回実施し、芸術の先生や管理職の先生方に授業を見て頂き、親身になってご意見やご指導を頂いたことは貴重な機会となりました。また、楽譜作りなどの専門的な知識が必要な場面では、前年度お世話になった指導教員の東川先生が快く相談に乗ってくださり、大変心強かったです。

臨時休業中の2ヶ月という期間は、長い時間のように、何かを考え実行するには非常に短い時間のようにも感じました。特に強く思ったことが、普段の学校生活の中で、いかに授業のために時間を作ることが難しいか、ということでした。今までに作った教材や授業の進め方を落ち着いて見直すと、生徒の実態とそぐわなかったり、授業の中で伝えたい核の部分がぶれていたりすることにも気づくことができましたように思います。また、年間を通しての単元のつながりや順序についても、しっかりと計画を立ててから行う必要性を強く感じました。音楽という専門科目を生徒に教える立場として、日々の喧噪の中でも、自分の専門性の向上には引き続き時間を作り、自信を持って授業をできる教員でありたいと改めて思いました。

生徒を目の前にして、生徒の反応を見ながら授業ができるのは、やはりやりがいがあります。共に同じ空間で、同じ時間を共有して鑑賞したり器楽演奏をしたりすることは、一人では得られないものを五感で感じられることを、生徒と共に再認識しています。音楽部でも、音楽を通して充実した時間を作りたいという同志が集まったの活動となり、少人数ではありますが私自身にとっても充実した音楽活動ができることは非常にありがたいことです。活発な活動はなかなかできていませんが、「人と環境に恵まれて、豊かな音楽活動ができると感じた」という言葉を、2年間共に活動してきた生徒から聞くことができたのが本当に嬉しかったです。これからも顧問と部員の中で共通の認識を持って、一つでも多く、楽しく実りの多い音楽活動を行いたいです。

今年度は、音楽活動が心置きなくできる状況が当たり前でないことを実感した1年となりました。このような中でも、高文祭を感染対策を行った上であわぎんホールで開催して頂いたり、音楽教育講習会で校外での学びの機会を作って頂いたことを大変ありがたく感じています。すぐに前の状況に戻ることは難しいと思いますが、生徒が豊かな音楽体験ができるよう、自分の力を尽くしたいと思います。また、今年度は昨年度から持ち上りでホームルームの担任をさせて頂きました。生徒とのやりとりだけでなく、保護者との関わり方にも慣れることがなく、苦戦し続けています。短い時間での関わりの中で私ができることは何か、授業とは違った難しさも感じています。先が見えない時代ですが、力強く生きようとする高校生の姿をサポートしながら、一緒に前を向いて毎日を丁寧に過ごすことができればと思います。

第1学年音楽科学習指導案

令和2年11月10日(火) 5校時

城西高等学校 音楽室

13・14 HR 16名(音楽I, 2単位)

指導者 松丸 麻祐子

1 題材 トーンチャイムでアンサンブルを楽しもう！

2 題材の目標

- (1) トーンチャイム特有の演奏形態，また音色や奏法の特徴を理解し，必要な技能を身につけ音楽表現を工夫して演奏することができる。
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) トーンチャイムの音色や奏法の特徴，それによって生み出される響きや表情などを生かし音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。また，クラス全員での合奏形態のよさや持ち味に関心を持ち，それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。

3 教材

教科書 MOUSA 1 (教育芸術社)「チャイムでアンサンブルを楽しもう」

副教材 アンサンブル楽曲(きらきら星, 小さな世界)

4 題材について

(1) 児童生徒の実態

対象生徒は高等学校1学年の音楽I選択クラスの16名である。1学期にも本クラスで研究授業を行った。ここまでにボディパーカッションやウクレレによる器楽演奏に取り組んだが，トーンチャイムの授業にも全員が積極的に取り組んでいる。リズムの基礎練習においても音符の長さやテンポに合わせての演奏などの基本を理解できており，トーンチャイムの演奏練習にもスムーズに移行できている。なかなか生徒同士のコミュニケーションが見られないため，曲の完成のために必要なメンバー間の協力について，授業内で促していきたいと考えている。

(2) 教材について

MOUSE 1の中にトーンチャイムを扱ったページがある。トーンチャイムの扱い方や奏法はこのページを使用し生徒に説明をする。ただ，16人という大人数なので，演奏曲は生徒に馴染みのある「きらきら星」「小さな世界」を編曲して使用した。通常のトーンチャイムはG4からG6の2オクターブの音域を使うことが多いが，今回はC4からC7の3オクターブに音域を広げた。クラスを2グループに分けて練習が行えるように低音と高音のパートに分け，できるだけ低音パートの楽譜を読譜しやすいように工夫した。また，担当の音を生徒一人につき2本

までにすることと、できるだけ打音回数に大きな開きが起きないように、注意して楽譜を編曲した。

(3) 指導にあたって

トーンチャイムの音色には、誰もが思わず耳を傾けて聴きたくなるような魅力がある。大学生の時にアウトリーチ活動として様々な施設へ訪問演奏を行っていた際、トーンチャイムの演奏は大変人気があり、聴いた観客の反応からも楽器の魅力をその度に実感してきた。施設によっては演奏に感銘を受け、デイサービスの活動等で取り入れたという話も聞いた。練習や演奏発表で得られる感動や達成感を、生徒にも味わってもらいたいと考えている。

トーンチャイムは誰にでも簡単に音を出すことができる楽器だが、一人で演奏することは難しいので、アンサンブルを行うには最適な楽器である。そして、音も美しく練習しても心地よく楽しんで演奏できる楽器である。特にトーンチャイムは、編曲の工夫やアレンジの仕方などの楽譜作りの工夫によって、生徒に充実感と達成感を与えることが出来ると考えている。

今回編曲した楽譜は、低音パートと高音パートに分け、パート練習が行えるように準備した。その中でも、低音パートはできるだけ細かい動きを避け、一定のテンポで楽譜の記譜通りの正しい演奏が出来ることを目標にする。また和音など仲間とタイミングを合わせて音を出すことにも意識させたい。高音パートにはメロディラインや分散和音などの細かい動きを多く取り入れ、音と音との繋がりを練習の中で意識させたい。音楽の技能や理解度もばらつきのある生徒だが、楽譜の特徴を鑑みて、生徒一人一人に適切な難易度の音を振り分けたい。

また、自分の担当する音をマーキングする際にも工夫をさせたい。事前に音符の長さや音の読み方等の基礎的な楽典の知識も扱うため、その知識が器楽の活動の中で生きるように指導したいと考える。生徒が1年間で専門的な知識を身につけたという充実感・達成感が、このトーンチャイムの授業で少しでも実現できればと思う。

5 新学習指導要領との関連

A 表現

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(2) 器楽

器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

(ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能

6 題材の評価規準

【新】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。</p> <p>②他者との調和を意識して演奏する技能を身につけて演奏している。</p> <p>③楽譜の中の様々な表現形態による表現の特徴を生かした音楽表現をするために必要なトーンチャイムの技能を身につけて演奏している。</p>	<p>①音色・リズム・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。</p>	<p>①トーンチャイムの音色や奏法の特徴、それによって生み出される響きや表情などを生かし音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。また、クラス全員での合奏形態のよさや持ち味に感心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

【現行】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>① トーンチャイムの音色や奏法の特徴、それによって生み出される響きや表情などを生かし音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。また、クラス全員での合奏形態のよさや持ち味に感心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。</p> <p>②音色・リズム・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。</p>	<p>①他者との調和を意識して演奏する技能を身につけて演奏している。</p> <p>②楽譜の中の様々な表現形態による表現の特徴を生かした音楽表現をするために必要なトーンチャイムの技能を身につけて演奏している。</p>

7 指導と評価の計画（本時5/8時間）

次	時	教材	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	◇評価規準 ◆評価方法	要素
第一	①	・教科書	◎トーンチャイムの基本的な奏法を身につける。		音色
	②	・楽譜「きらきら星」			リズム

次		<ul style="list-style-type: none"> ●トーンチャイムの演奏を鑑賞し、どんなことに工夫して演奏する楽器かを考える。 ●トーンチャイムの扱い方や正しい音の出し方などを学習し、「きらきら星」の演奏を通して演奏の際に気をつけることを確認する。 ・担当する音の役割を変えて、メロディと伴奏のどちらも経験できるように練習する。 ・音のマーキングの仕方や音価の確認を行う。 	<p>◇トーンチャイムの音色や奏法の特徴、それによって生み出される響きや表情などを生かし音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。また、クラス全員での合奏形態のよさや持ち味に感心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【主①】</p> <p>◆活動の観察</p>	テクスチャ
③ ④ ⑤ (本時) ⑥ ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・楽譜「小さな世界」 	<p>◎トーンチャイムの扱い方や基本的な技法を習得したうえで、「小さな世界」を演奏する。</p>	<p>◇曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している。【知・技①】</p> <p>◇他者との調和を意識して演奏する技能を身につけて演奏している。</p> <p>【知・技②】</p> <p>◇楽譜の中の様々な表現形態による表現の特徴を生かした音楽表現をするために必要なトーンチャイムの技能を身につけて演奏している。</p> <p>【知・技③】</p> <p>◇音色・リズム・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに自己のイメージをもって器</p>	

		う。 ●最後に練習のまとめとしてビデオ録画を行う。 ・自分たちの演奏が聴く相手にどのように伝わって欲しいかを考える機会を作る。	楽表現を創意工夫している。 【思・判・表①】 ◆活動の観察 ◆グループ活動 ◆ワークシート
⑧		◎自分たちの演奏や他クラスの演奏を聴いて、演奏の良さや工夫点に気づき、次に自分たちが演奏するときどんな工夫が出来るか考える。	
		●ビデオ録画した演奏を鑑賞する。 ・発表のどの部分がよかったかワークシートに書き込みながら鑑賞する。 ・自分たちの演奏を振り返り、工夫したことにより演奏がよりよくなった点や、次に改善できる点を考える。	◇音色・リズム・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。 【思・判・表①】 ◆活動の観察 ◆ワークシート

8 本時の学習

(1) 目標

「小さな世界」の演奏をグレードアップさせよう！

(2) 展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要 素
1 各自でトーンチャイムを準備し、和音でのリズム練習を行う。	○準備が終わったら、持っているトーンチャイムの確認を行う。 ○和音を使ったリズム練習を行い、打音・消音の演奏方法について確認する。 ○本時のめあてを板書し確認させる。		
2 本時の目標を提示する。	「小さな世界」の演奏をグレードアップさせよう！		音色 リズム テクスチ

<p>3 前時の演奏の録音を聴いて、改善点を考え、話し合う。</p>	<p>○自分で一つでも気になったことや改善点を考えてもらい、グループで意見を出し合う。</p> <p>○どう工夫すればよりよい演奏にできるかをグループごとに発表し、それをふまえた練習を行う。</p>	<p>◇音色・リズム・テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。【思・判・表①】</p>	<p>ユア</p>
<p>4 全員で練習を行い、再度録音を録る。</p>	<p>○改善点を確認しながら練習する。</p> <p>○再度録音を録り、前時の演奏に比べて良くなった点、より工夫できる点について考えてもらい、ワークシートに記入する。</p>	<p>◇他者との調和を意識して演奏する技能を身につけて演奏している。【知・技②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆活動の観察 ◆ワークシート 	
<p>5 トーンチャイムを片づける</p>			

(3) 評価及び指導 (手立て)

【思・判・表①】

<p>A (十分満足できる) と判断される具体的な状況</p>	<p>・演奏についての工夫点や改善点を、個人で2つ以上考えることができる。</p>
<p>B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導 (手だて)</p>	<p>・一つも思い浮かばない生徒には「旋律の流れ」や「和音の奏法」に着目させ、上手く演奏するためにはどうすればいいかを考えさせる。</p>

【知・技②】

<p>A (十分満足できる) と判断される具体的な状況</p>	<p>・旋律を演奏するときに、他の旋律の音色を聴いて、その流れに合った音色で演奏している。</p> <p>・和音を演奏するときに同じタイミングで演奏する仲間を意識した演奏 (アイコンタクトなど) ができている。</p>
<p>B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導 (手だて)</p>	<p>・工夫している生徒の演奏方法を見せ、技法を真似させる。</p> <p>・いくつか演奏のパターンを見せ、どの方法が適切か生徒に選ばせる。</p>

(4) 板書計画

目標 「小さな世界」の演奏をグレードアップさせよう！

授業の流れ

- 1 トーンチャイムの準備
- 2 目標の確認
- 3 前時の録音の鑑賞
- 4 練習
- 5 本時のまとめ(録音)

演奏で気になったところ ⇒ 改善するには

- | | |
|---|---|
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

3 ミドルリーダー研修Ⅰを終えて

徳島商業高等学校 長町 美希

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、研修の内容が、がらっと変わった。なくなった校外研修が多く、10年の節目を迎えた実感が薄かったが、それでも行う研修の一つ一つを丁寧に行うと決めた。

模擬授業研修では、5人の受講者とともに行った。私以外、小学校の先生方で音楽専科の先生もいらっしやれば、音楽が好きだから音楽の授業で研修を行う先生方もいらっしやった。小学校の先生方の授業は大変ためになった。板書やICT機器をうまく使って児童生徒の興味関心を継続させる工夫が多く見られた。また導入では、クイズをしたり前時の復習を丁寧にしたりするなど参考にしたいことがたくさんあった。いかに今までの自分の授業が熟考されていなかったか恥ずかしくもなった。

私は、今年は歌唱や器楽の活動がしにくいこともあり、創作で授業研修を行った。沖縄音階を使った旋律の創作である。写真を見てイメージを言葉にし、その言葉を根拠にして旋律を生み出していく。模擬授業研修では音楽に精通している先生方ばかりで、楽しんで取り組んでいただけだったが、実際の授業ではイメージを言葉にすることはできたが、それを根拠に音符にしていく作業が難しかった。それでも必死にキーボードと楽譜に向かって考える姿が印象的だった。もう少しスモールステップを設け、どの生徒も楽しんで取り組めるような指導を考えたいと思う

ミドルリーダー研修Ⅰは終わったが、5年後にミドルリーダー研修Ⅱが待っている。5年後にはもう少しレベルアップした自分を見せられるように研鑽を積みたいと思う。

芸術（音楽）科 学習指導案

日 時：令和2年11月11日（木）5校時

場 所：徳島商業高等学校音楽室

対 象：102 HR 8名

授業者：教諭 長町 美希

1 題材 「イメージを音にしよう」

2 題材設定の理由

新型コロナウイルス感染症対策の影響で今までの生活様式が一変した。普段の何気ない日常が制限され、それは学校生活においても例外ではない。音楽科の授業では飛沫防止の観点から歌唱や器楽の活動が制限されている。5月末から開始した対面での授業は通常行っていた校歌の歌唱指導は数回程度、リコーダーの学習は行っていない。生徒は歌いたい気持ちもあるようだが今は仕方ないと我慢しているようである。1学期は聴音（リズム：四分音符、四分休符、八分音符程度 音：シドレ4小節程度）の学習を行った。

2学期からは、器楽の活動を行うことにした。リコーダーなど、吹く楽器は扱いにくいので弦楽器を扱うことにした。沖縄の伝統楽器、三線を取り入れる。三線は三味線に似た形をしており、その音は沖縄の海や風をイメージさせる。今この状況で旅行に行くことも難しく、少しでも日常の気分から変わることができればと設定した。生徒たちは初めて触れる楽器ということもあり、意欲をもって取り組んでいる。

また、本題材では、三線の演奏から発展させ、沖縄音階を使ったメロディの創作を行うことにした。1学期に行った聴音の学習を活かし四分音符や八分音符を使って楽譜に書く。沖縄音階がもつ独特の雰囲気を生徒自ら紡ぎ出していくことで新たな音楽活動の楽しさを発見してほしい。また、イメージを音やメロディにすることは自己表現につながる。漠然とあるイメージを具体的に言語化し、他者に伝え表現することは大切なことである。本ホームルームの生徒は真面目で意欲はあるが、発表したり自分の考えを伝えたりすることを苦手とする者が多い。活動の中で思うことなどをワークシートに書く活動や友達の意見を聞くなどして自分の思いを表出することにつなげたい。

「高等学校学習指導要領 音楽 I 3 内容 A 表現 (3) 創作 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること」とあるように、沖縄音階が醸し出す雰囲気を感じ取って創作を行いたい。また、イメージを表現するため、何拍子にするか音符は何を使うかなど、じっくりと考えてほしい。音のつながりやフレーズのまとまりによって生み出される表情の多様さなどに生徒自らが気づきながら、意欲をもって取り組めるようにと思い、本題材を設定した。

3 題材の目標

- (1) 沖縄の写真から受けるイメージを音楽で表現するための創作活動に関心をもち、沖縄音階の特徴を生かして、創作活動に主体的に取り組む。
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、写真から受けるイメージをどのように創作していくかについて表現意図をもっている。
- (3) イメージしたことを表現するために必要な技能を身に付け、イメージに合ったふさわしい音楽をつくる。

4 題材の評価基準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・沖縄音階の特徴に関心をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	・沖縄音階の特徴を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身につけ、創造的に表している。

5 教材

パワーポイント，プリント教材

6 指導計画

	◎ねらい ○学習内容	◇評価基準 ◆評価方法
①	◎写真から受けるイメージを言葉にし，音楽の諸要素に照らし合わせながら曲の方向性を考える。	
	○沖縄音階について知る。 ○写真から受けるイメージを言葉にする。 ○写真をもとに音楽の諸要素について考える。	◇沖縄音階の特徴に関心を持ち，イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 ◆ワークシート
② 本時 ・ ③	◎音楽のイメージに合った旋律を音楽の諸要素をもとに工夫して創作する。	
	○音楽の諸要素から考えたことから旋律の創作をする。	◇音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら，表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し，どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 ◆ワークシート・作品
④	◎つくった旋律をひとりずつ発表する。	
	○ひとりずつ曲の説明をして演奏の発表をする。	◇沖縄音階の特徴を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付け，創造的に表している。 ◆観察

7 本時の指導目標

- ・沖縄の写真から受けるイメージを大切にし，音楽の諸要素をもとに創作を工夫する。

8 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	具体の評価基準 ◆評価方法	要素
1. 前時の確認をする。 2. 本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に行った，自分が考えた項目ごとの音楽の諸要素について確認させ，学習への意欲を高める。 本時の学習内容を確認させる。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> イメージから音楽をつくりだそう </div>			
3. 項目ごとに考えた音楽の諸要素から五線譜に創作する。 <ul style="list-style-type: none"> 拍子を確定する。 音の上がり下がり音を音を出しながら決めていく。 リズム（四分音符，八分音符など）を決めていく。 4. 本時のまとめをし，次時の予定を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 決めかねている生徒には具体的に違いを提示し，どちらがより自分のイメージに近い考えさせる。 仕上がった際には発表することを伝え，次時への意欲につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら，表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し，どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 ◆観察・ワークシート 	旋律 リズム 拍子

9 評価及び指導の手だて

(A) と判断される具体的な状況	写真から受けるイメージをとらえて，どんな曲をつくりたいか，音楽を形づくっている要素と関わらせながら根拠をもってワークシートに記入している。
(B) と判断される状況を実現するための指導(手だて)	本人のイメージを表現できるような言葉を教師が見つけ出し，本人の意識の喚起を促す。

IV 令和2年度 徳島県高等学校教育研究会 音楽学会会員名簿

会 長 臼 井 公 仁 (名 西 高 等 学 校)
副 会 長 山 根 幹 (名 西 高 等 学 校)
学 会 幹 事 石 川 宏 美 (名 西 高 等 学 校)

城東高校

1 井上郁代 教諭

城南高校

1 和泉康洋 教諭

城北高校

1 荒木結香 教諭

城ノ内高校

1 坂東 遥 教諭

徳島北高校

1 榑 一二三 教諭

徳島市立高校

1 梅本敏行 教諭

城西高校

1 松丸麻祐子 教諭

徳島科学技術高校

1 東川容子 教諭
(岸 直美 教諭)

徳島商業高校

1 長町美希 教諭

小松島高校

1 山本美樹 教諭

小松島西高校(兼務)

小松島西高校 勝浦校

1 庄野 光 講師
(森本奈央子 教諭)

富岡東高校

1 梅本香織 教諭

富岡西高校

1 常陸貴生 教諭

阿南光高校

1 葉久かおり 教諭

海部高校

1 大羽恵子 教諭

鳴門高校

1 岩崎律子 教諭

板野高校

1 山本裕子 教諭

名西高校

1 山根 幹 教諭
2 石川宏美 教諭
3 上原慎太郎 教諭
4 新居誠司 教諭

川島高校

1 山田麻依子 教諭

脇町高校

1 北川昌代 教諭

池田高校

1 三木野喜子 講師
(黒木小百合 教諭)

徳島視覚支援学校

1 仁木悦子 教諭
2 細井京子 教諭

国府支援学校

1 今津崇晴 教諭

ひのみね支援学校

1 豊田尚子 教諭
2 井村二千翔 教諭

みなと高等学園

1 吉田美恵 教諭

阿南支援学校

1 濱田三貴子 教諭

板野支援学校

1 原口絵里 教諭

発行日 令和3年3月31日

発行所 徳島県高等学校教育研究会音楽部会

事務局 徳島県立名西高等学校内